

慶應義塾大学 SFC 環境情報学部は、残すに値する未来と一緒に創造できる人を求めています。

私たちが生きるこの世の中では、たくさんのことが目まぐるしく変化しています。私たち一人ひとは、望む、望まないにかかわらず、目まぐるしく変化するこの世の中で、生きていくことになります。

この世の中には、不条理な（※1）ことがたくさんありますが、それら臭いものに蓋をしても、隠し通すことはできません。近い未来、私たちが生きているうちに、必ずそれらの不条理と向かい合う日がやってきます。

腰がひけたまま、他人事のように未来をただ待つのではなく、私たち一人ひとりが、どうすればそれらの不条理を解決し、残すに値する未来を創造できるのかを考え、できることから仕掛けていくことが大切です。

（※1）ここでいう「不条理な」とは、英語の「Irrational」を意味し、「理性のない、分別のない、道理のわからない、不合理な」という意味を表すとします。

以上のことを理解した上で、次の問1～3に答えてください。

問 1. 不条理を解決する第一歩は、論理的にあり得ない問題を発見し、定量的な観点から、合理的な答えを導き出すことです。

このことを踏まえ、問 1—1、問 1—2、問 1—3 に答えてください。

問 1—1. 数量 A は $46 + x$ 、数量 B は $49 - x$ で、 $x > 0$ であるとします。この数量 A と数量 B を比べたとき、次の (ア) ～ (エ) のどれが論理的に正しいか、一つ選んで解答欄に記入してください。

- (ア) 数量 A の方が数量 B よりも大きい。
- (イ) 数量 B の方が数量 A よりも大きい。
- (ウ) 数量 A と数量 B は等しい。
- (エ) 与えられた情報だけでは決定できない。

問1—2. それぞれ異なる整数 s , f , c があり、いずれも正の整数であるとして、整数 s は f の因数、 f は c の因数であるとき、以下の (ア)、(イ)、(ウ) の記述のうち、どれが正しいでしょうか。(ア)、(イ)、(ウ) の記述のうち、正しいと思われるものをすべて選んで、解答欄に記号で記入してください。

(ア) s は f の2乗の因数である。

(イ) s は fc の因数である。

(ウ) s は $f - c$ の因数である。

問 1—3. $x = 2^{-1}$, $y = 10^{-1}$ であるとき、 $\left(\frac{1}{x}\right)\left(\frac{1}{y^3} + \frac{1}{y} + 1\right) - 1$ の値とは何か、

解答欄に数値を記入してください。

問2. あなたがこの世の中で不条理だと感じていることを15個挙げてください。また、なぜそれらを不条理だと感じるのか、個々の不条理の内容と理由をそれぞれ簡潔に1文で記述してください。

なお、不条理は、個人的かつ情緒的な内容（例えば、夜起きていたいのに眠くなる、〇〇をみるとカッとする、など）ではなく、下記の課題ジャンル（a）～（c）のいずれか、もしくは、複数に関わる内容を記述してください。

不条理ごとに、各解答欄右の四角（□）内に課題ジャンルを付記し、挙げた全ての不条理を通して（a）～（c）の全てを網羅してください。

課題ジャンル：

- （a） 人間の慣習に関すること
- （b） 社会のしくみやルールに関すること
- （c） 人間と環境の関係に関すること

問3. 問2であなたが回答した不条理のうち3つを取り上げ、その解決の方向性と方法（※2）について、解決のカギとなる技術革新・アイデアを含め、できるだけ具体的、定量的、かつヴィジュアルに説明してください。

記述する際は、各解答欄の左上の四角（□）内に、問2のどの不条理を取り上げたのか、その番号と(a)～(c)の課題ジャンルを記入してください。

（※2）例えば、カップラーメンを食べる場合、麺を食べられるようにほぐすというのが解決の方向性、お湯をかけて待つ、もしくは、水を入れて電子レンジにかける、というのが解決の方法の例です。